

会		議		記		録	
会議の名称		環境市民厚生常任委員会		会議場所	全員協議会室		
				担当職員	小野		
日 時	令和6年1月25日（木曜日）			開 議	午前	10時	00分
				閉 議	午後	0時	44分
出席委員	◎大塚 ○富谷 大西 大石 土岐 梅本 平本 西口						
理事者 出席者	【環境先進都市推進部】山内部長						
	〔環境政策課〕大倉課長、鈴木副課長、名倉副課長						
	〔資源循環推進課〕鈴木課長、西田施設担当課長、曾我部主幹、宮川資源循環推進係長						
	【市民生活部】森川部長						
	〔保険医療課〕吉田課長、的場国保給付係長						
	【健康福祉部】亀井部長						
	〔障がい福祉課〕西山課長、青山主幹、俣野障がい者福祉係長						
事務局	〔高齢福祉課〕松本課長、藤谷副課長、八田副課長、酒井介護保険係長						
	【市立病院】田中病院事業管理者、土岐部長						
	〔病院総務課〕吉村課長						
	〔医事課〕松野課長						
	〔経営企画室〕竹内室長						
井上局長、小野主任							
傍聴者		市民 0名		報道関係者 0名		議員 0名	

会 議 の 概 要

1 開 議

2 行政報告

[理事者入室] 市立病院

(1) 市立病院経営強化プラン（案）の説明について

<病院事業管理者>

(あいさつ)

<経営企画室長>

(資料に基づき説明)

～10:25

[質疑]

<西口委員>

現在、市立病院にどのような需要があり、今後どのような医療を供給していくのか。

<病院事業管理者>

どのように需要に応えるかというのは当初からの課題であるが、本市立病院では回復期に必要な医療が不足すると考えられるため、長期的な医療につい

ては、京都中部総合医療センターと連携して対応していきたい。経営面については、約3割の急性期医療が京都市内に流出しており、収益的には脊椎外科が大きな支えとなっている。高度な急性期医療は担えないが、骨折や乳腺外科は京都中部広域医療センターの2倍の患者を受け入れている。昨年度の救急外来の受け入れは1,000件を超えており、市民の需要に応えるため、今後は救急外来を重視していきたいと考えている。京都府立医科大学附属病院と協議を行い、医療体制の整備を行っているが、どこの医療機関も人材不足であり、本市立病院においても同様の状況となっている。

<西口委員>

市民から、市立病院で検査を行い、紹介状をもらって京都市内の病院に転院したが、同様の検査を再度行うことになったと伺ったが、京都市内の病院とどのように連携しているのか。

<病院事業管理者>

どのような病気やけがであっても、最初の段階で検査が必要になり、他の病院に紹介する際には、検査結果を記載した紹介状を書いている。本来、紹介状の検査結果を基に医療を行うため、再度の検査は不要であるが、病院によっては重複する検査を行われる医療機関もある。

<大石委員>

急性期医療を南丹圏内で留めておくための工夫を行っているのか。

<病院事業管理者>

国が基準を設け、大規模病院でなければできないことなどを示したため、市立病院でできる急性期医療が少なくなっている。京都中部総合医療センターと連携して取組を進めているが、十分ではない状況である。京都中部総合医療センターは、規模の拡大を計画しているが、南丹市だけでは採算がとれないと考え、亀岡市との連携の必要性を感じていると伺っている。急性期医療は亀岡市立病院が受け入れるなど、双方に利益があるように取組を進めたい。また、隣接する京都市には、京都大学附属病院や京都府立医科大学附属病院など、世界的に有名な病院があるため、回復期はそちらに任せるなど、連携方法を検討していきたい。

<梅本委員>

地域住民の声も受け入れているとのことであるが、どのような声があったのか。

<経営企画室長>

直接は伺っていないが、今後、パブリックコメントや民間病院が参入した会議などで情報を共有していきたい。

<梅本委員>

プランを立てる前に声を聞くべきではなかったのか。今後、レスパイト入院も積極的に受け入れるとのことであったが、どのように進めていくのか。

<経営企画室長>

回復期は在宅療養されている方の一時的な入院も受け入れる必要があると考えており、訪問看護ステーションなどと連携し取り組んでいきたい。

[理事者退室] 市立病院

[理事者入室] 環境先進都市推進部

(1)「経済循環型ゼロカーボン亀岡」の達成に向けた民間提案制度について

<環境先進都市推進部長>

(あいさつ)

<環境政策課長>

(資料に基づき説明)

～ 11 : 09

[質疑]

<梅本委員>

採用・不採用・継続協議の判断基準は。

<環境政策課長>

事業提案の具体性を判断材料の一つとしており、本市の地域特性や課題を踏まえ、課題整理が必要なものは不採用・継続協議とした。

<梅本委員>

この取組は、2030年までに温室効果ガス50パーセント削減することに向け、どのくらい効果があるのか。

<環境政策課長>

詳細に何パーセントと示すことはできないが、そういった仕組みをつくり有効活用する必要があると考えている。費用対効果などを踏まえ総合的に判断していく。

<西口委員>

市民の中には、小水量発電が容易にできると認識されている方もいるが、どのようなものか周知する必要があるのではないか。

<環境政策課長>

維持管理なども必要であると聞いており、一定普及してきた時点で周知していきたい。

(2) (仮称) 環境政策情報発信・交流拠点施設の整備状況について

<環境政策課長>

(資料に基づき説明)

～ 11 : 23

[質疑]

<平本委員>

物価高騰の影響はないか。

<環境政策課長>

現在の予算の中で整備できると考えている。

(3)「保津川の日」について

<環境政策課長>
(資料に基づき説明)

～ 11 : 25

[質疑なし]

(4) 使用済みおむつ資源化実証実験事業について

<資源循環推進課長>
(資料に基づき説明)

～ 11 : 31

[質疑]

<大塚委員>

実証実験はどのくらいの期間を想定しているのか。

<資源循環推進課長>

令和6年度の1年間と考えている。

[理事者退室] 環境先進都市推進部

< 休 憩 11 : 32 ～ 11 : 36 >

[理事者入室] 市民生活部

(1) 亀岡市国民健康保険第3期データヘルス計画及び第4期特定健康診査等
実施計画の策定について

<市民生活部長>
(あいさつ)
<保険医療課長>
(資料に基づき説明)

～ 11 : 44

[質疑なし]

[理事者退室] 市民生活部

[理事者入室] 健康福祉部

(1) 亀岡市手話言語及び障害者コミュニケーション条例の一部改正について

<健康福祉部長>
(あいさつ)

<障がい福祉課長>
(資料に基づき説明)

～ 1 1 : 5 5

[質疑なし]

(2) 亀岡市福祉医療費支給条例の一部改正について

<障がい福祉課長>
(資料に基づき説明)

～ 1 2 : 0 1

[質疑]

<大石委員>

制度を拡大することによって対象者はどのくらい増えるのか。

<障がい福祉課長>

現在 8 0 8 人おられ、5 1 人増える見込みである。

[理事者退室] 健康福祉部

3 その他

(1) 来年度の委員会テーマについて

<大塚委員長>

今年度は、「ヤングケアラー支援を中心とした重層的支援」をテーマとして活動してきたが、来年度のテーマについて協議したい。事前に候補を挙げているため、順次選定理由を説明していただきたい。

<冨谷副委員長>

前年度、視察で循環型社会を勉強したが大変有益であった。環境先進都市を掲げる本市の取組をさらに充実させるため、ごみの資源化をテーマとし、視察先として八王子市を提案する。

<大西委員>

市民が使いやすい形の重層的支援体制をテーマとしたい。視察先として、岩手県盛岡市を挙げているが、遠方でありこだわるものではない。

<土岐委員>

自分たちで草木類を処理・活用できる手法の一つとして、枝木の処理施設・剪定の枝木などのチップ化をテーマとしたい。

<梅本委員>

亀岡市では、かめおか脱炭素未来プランを掲げ、2030年までに温室効果ガスを50%カットすることに向けて取組が進められている。そこで再生可能エネルギー導入戦略と地球温暖化対策の実行をテーマとして提案する。4人の委員が脱炭素を挙げているので注目度が高いのではないかと考えている。

<大石委員>

福祉部門が中心となるが、先進地で行われている介護ロボットなどを活用した高齢者支援、喫緊の課題となっている自殺対策、昨今取り上げられている生活保護と母子家庭との関連、保育士の人材確保、各種申請手続きの電子化などをテーマとしてはどうか。

<平本委員>

公共施設における省エネルギーなどの取組の一つとして、環境分野で企業と連携して取組を進めるE S C O事業をテーマとしてはどうか。

<西口委員>

亀岡市では、子育て支援に目がいきがちであるが、高齢者支援にも目を向けるべきである。

<大塚委員長>

大きく環境分野と福祉分野に分かれたが、どのように取り扱うか。

<平本委員>

福祉分野については、令和6年度から重層的支援体制整備事業が始まる中で、随時進捗状況が報告されると思うので、その際に全体的な内容を確認してはどうか。

<梅本委員>

再生可能エネルギーや省エネなどを包括的に取り上げるため、テーマを「脱炭素に向けた取組」としてはどうか。

<大塚委員長>

令和6年度の活動テーマを「脱炭素に向けた取組」としてよいか。

ー全員了ー

<大塚委員長>

次にテーマに沿った視察先について協議したいが意見はあるか。

<平本委員>

事前に視察先の案を示しているが、静岡県富士市と神奈川県小田原市はテーマに沿った内容であり、地域も近いのでこの2つを視察先としてはどうか。

<土岐委員>

本委員会の所管事項として、福祉分野などについても視察を行ってはどうか。

<大塚委員長>

静岡県富士市、神奈川県小田原市周辺の地域で、福祉・子ども施策について候補地を検討していくこととしてよいか。

ー全員了ー

<大塚委員長>

本日は、今年度のテーマと視察先について協議いただいた。後日開催される特別議会で決まる新体制の下、改めて決定していきたい。また、後日、福祉・子ども施策などの候補地について具体的な検討を行う。次回の委員会は、2月7日（水）特別議会において、正副委員長の選挙を行う。

散会 12:44